

箕面市消防本部

社会環境の変化に伴い出火原因が複雑化している火災や、増加の一途をたどる救急。緊急を要する現場に急行し、市民の命や財産を守る人々がいる。「箕面市消防本部」で日々鍛錬を重ねる消防職員たち取材した。



命をまもる最前線

24時間働く人命救助のスペシャリスト

『箕面市消防本部・箕面消防署』（以下、本部）は、箕面市と豊能町を管轄する消防・救急・救助の司令塔。市内には本部の他に『東分署（箕面市粟生外院）』と『西分署（箕面市瀬川）』が、豊能町には『豊能消防署』と『東出張所』が配置され、日夜問わず不測の事態に備えている。

消防士の勤務時間は朝9時から翌朝9時まで。建物内には仮眠室や食堂、風呂場や洗濯場などの生活設備が整うが、24時間のうちいつ出勤指令があるかはわからない。危険な現場に踏み込むこともある中で、守らなければならぬのは市民だけでなく自分の命も同じ。刻一刻と変化する状況判断能力と、過酷な現場を乗りきる体力とが求められる職業だ。

消防士の仕事について話を聞かせて

くれたのは、「箕面市消防本部 箕面消防署 警防第一室 東分署」以下、同隊に所属する4人のみなさん。同隊の高橋さんは「現場では気を張りますが、オンとオフをしっかりと切り替えることを大事にしています」と話す。とはいえ、出勤時以外の時間も車両や器具の点検、書類作成などやるべきことは多い。重い装備で迅速に動くための体力づくりや、ホースやはしごを使った実践さながらの訓練も欠かせない。



箕面市消防本部 箕面消防署 警防第一室 東分署
左から横尾佑也さん、高橋飛鳥さん、隊長の松田晃彰さん、井手大貴さん。「第6回大阪府下警防技術指導会」出動隊の4名

目の当たりにした消防士の反射神経

インタビュー中、「オンとオフを切り替える」の意味を痛感する出来事があった。部屋にけたたましい出動指令が鳴り響いたその瞬間、隊の全員が弾かれたように立ち上がったのだ。「行くぞ！」と緊迫感に満ちた声。建物火災の発生を知らせる指令だった。

され、またたく間にサイレンがうなりを上げて遠ざかる。その間わずか1分ほどだった。結果的にはすぐに誤報と判明し、取材は続行となったが、和やかな空気が一変したことに驚いた。さらに同隊の横尾さんに仕事への思いを尋ねた時のこと。「火災や救急は、僕らが投げ出してしまったら他に対処する人はいません。責任を持って……」とその時、今度は救急連携の出動指令が。横尾さんはとっさに立ち上がったが、苦笑して座り直し「人命救助、消火にあたりたいと思います。何を言おうとしたのか、一瞬わからなくなりました」と続けた。

考える前に体が動き出すほどに鍛え抜かれた反射神経。そこに至るまでの訓練の日々やとつもない責任感を、ほんの少しだが垣間見たように思えた。「自分にも家族がいますが、市民に對しても家族目線。プロ意識をもった対応で臨んでいます」と話してくれたのは同隊の井手さん。昨年、同隊は消火・救助技術を競う「第6回大阪府下警防技術指導会」で最優秀に選ばれた。



マトイ MATOY
『大阪青山大学』の女子ソフトボール部は消防団の学生消防隊「MATOY」に任命されており、大規模災害時には消防団員と連携して避難所で被災者への支援活動も行う。写真左は街頭啓発の様子

自分たちでまちを守るという意識を

現状を分析し、先々の体制を整備することも仕事だ。将来の「消防力保全計画」について予防室予防グループの中井さんが聞かせてくれた。「近年、火災件数は減少していますが、救急の出動は年々増加しています。高齢化とも救急の利用率はさらに上がると考えられます」と話す。かつて箕面市の人口は市内の西部に偏っていたが、現在はその重心は東部に移りつつある。現



箕面市消防本部 予防室 参事 予防グループ長 消防司令補 中井淳二さん

「第6回大阪府下警防技術指導会」で最優秀

木造2階建ての一般住宅2階から出火。ベランダに逃げ遅れた1名がいる現場を想定し、消防隊が迅速に救出と消火を行う競技。同隊の勝因について、松田さんは「日頃から実際の火災現場を想定して訓練を重ねてきた結果です。また本部全体や昨年参加した隊から指導やサポートをしていただきました。本部全体の力で掴んだ結果です」と話す。




在の消防署の配置と実際の需要にずれが起きることは必至。そこで、現在の5拠点から7拠点に増やす計画だ。

私たちにできることもある。まずは火の元や家電製品を点検し、火災予防に努めること。3月は空気が乾燥していて風が強く、一年の中でも火災が起きやすい。加えて救急車の適正利用も大切だ。救急の「119」にかけるか迷った時は、「救急安心センターおおさか」の「#7119」に電話しよう。府内の全市町村による共同事業で、相談員や看護師が24時間365日、病气や怪我についてアドバイスをしてくれる。緊急性が高いと判断された場合は救急車の要請もしてくれるので安心だ。

「出動すると、子どもたちが消防車に手を振ってくれることも。模範となれるよう、僕らが箕面のまちを守るという意識を常に持って業務にあたっています」と隊長の松田さん。平穩な暮らしを守ってくれる『箕面市消防本部』。私たちも当事者として、災害を未然に防ぐ意識を高めていきたい。

取材協力 箕面市消防本部 箕面消防署 (箕面市箕面 5-11-19)

●春の全国火災予防運動 関連イベント

場所/みのおキューズモール EAST エリア 1F エルステージ

日時/3月2日(土) 11:00~

内容/煙の恐さを体験できる煙体験ハウス、天ぷら油の火災実験

問い合わせ/072-724-9995 (箕面市消防本部 予防室)

▼通報を受けて速やかに場所を特定し、出動指令を出す




▲昨年新しく配備された高規格救急車。人命に直結するため、毎日の点検が欠かせない

◀救助隊が使用する救助工作車には多種多様な救助資機材が。写真は油圧式のスプレッダー。潰れた車のドアをこじ開けるなどの用途で使われる